

つながるための 「言葉」を 獲得する

AIの発達により自動翻訳の技術が急激に進化しています。左ページのデータにもある通り、仕事で英語を使っている社会人への最新調査によると、多くの人が「Google翻訳」

構成・文/笹原風花
イラスト/フクイヒロシ

Check!

＼ データで見る言語の「今」 ／

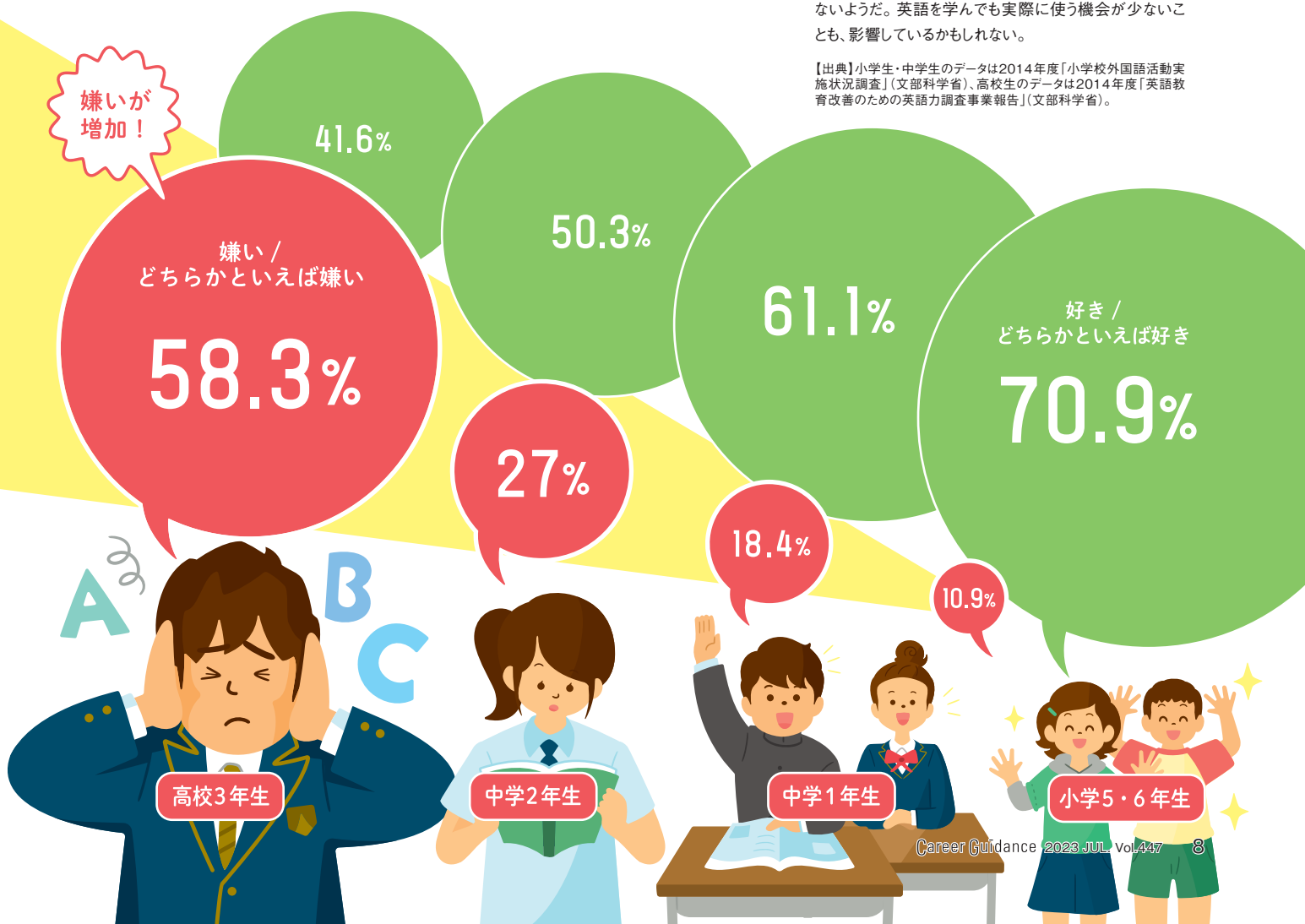
人とつながるために不可欠なのが言語。
ここでは、話者人口が最も多い英語を中心に、
世界や日本国内の言語にまつわる状況や高校生の意識について、
データでひもときます。

学年が上がるごとに英語が 好きではなくなる子どもたち

「英語が好き・どちらかといえば好き」と答える児童・生徒の割合は、学年が上がるにつれて減少。逆に、「嫌い・どちらかといえば嫌い」という生徒の割合は増えている。遊び感覚で楽しく触れていた英語が試験などのために必要な「勉強」になることで、嫌気が差してしまう子が少なくないようだ。英語を学んでも実際に使う機会が少ないことも、影響しているかもしれない。

【出典】小学生・中学生のデータは2014年度「小学校外国語活動実施状況調査」(文部科学省)、高校生のデータは2014年度「英語教育改善のための英語力調査事業報告」(文部科学省)。

Q.あなたは英語が好きですか？



や「ChatGPT」などの自動翻訳機能を業務に活用しているようです。

スマホ一台で簡単に他言語の翻訳ができてしまう今、語学を学ぶ意味や、キャリアへの活かし方について改めて考えてみたい。私たち編集部はそう思い、今回の特集を組むに至りました。

まずは言語に関するさまざまなデータからそのヒントを探ります。例えば、小学生のころは楽しく英語を学んでいた子でも、中学、高校と学年が上がるとつれて英語が好きではなくなってしまう傾向があります。その一方で、「英語で話すことが好き」と回答している社会人は、外国人とのコミュニケーションなど、人や世界とのつながりに魅力を感じているようです。

他言語を学び、新たな世界とつながった先に何があるのでしょうか。私たちと共に考えながら、ページをめくっていただけますと幸いです。

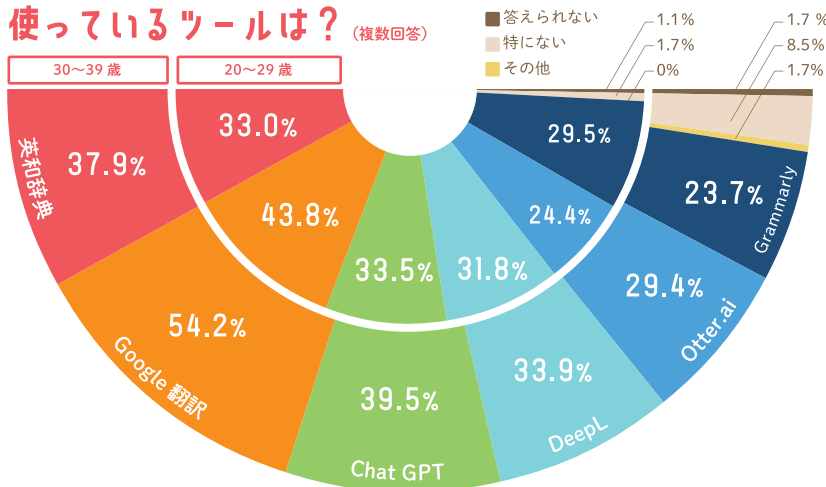
赤土豪一（本誌編集長）

英語を自ら学ぶ社会人は、人とつながる楽しさを実感

現在、英語学習をしているビジネスパーソンを対象にした調査では、85.2%が「英語を話すことが好き・どちらかといえば好き」と回答。英語で話すことが好きな理由として、ビジネスなどに役立つからというよりも、「外国人と意思疎通ができるから」「外国人と親しくなれるから」「新しい言語を学ぶこと、話すことが好きだから」という、人とつながることや世界が広がることの楽しさを挙げる人が多い。

【出典】2020年「英語のスピーキングに関する実態と意識調査結果」（一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会）。

Q.仕事で英語を使う際に使っているツールは？

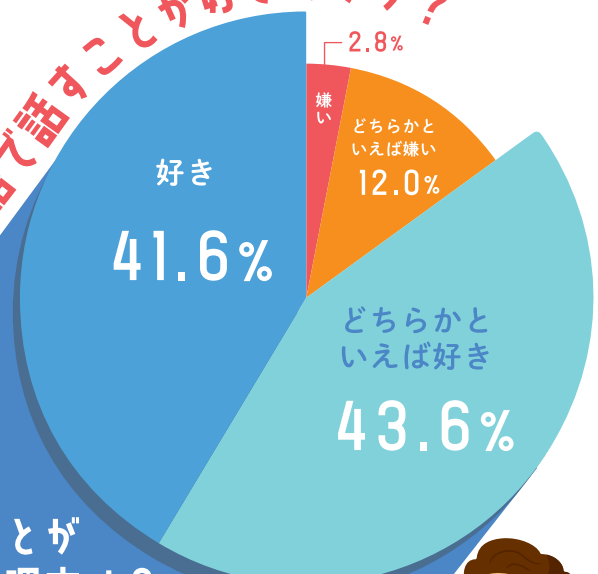


自動翻訳機能の活用が広がり、他言語理解のハードルが下がる

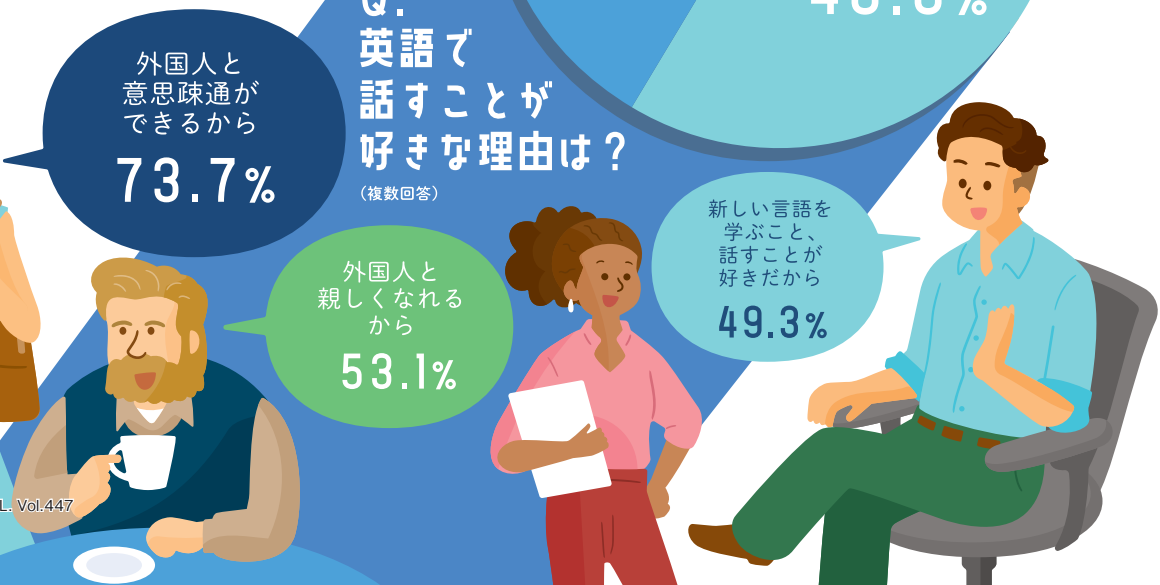
月に2回以上、仕事の実務で英語を使っているビジネスパーソンを対象にした調査を見ると、若い世代を中心に、多くの人がGoogle翻訳やChat GPT、DeepLなどの自動翻訳機能を活用していることがわかる。現時点では、AI翻訳は人間の英語力を補うアシスタント的な存在だが、機能がさらに進化した未来には、どうなるだろうか？ 他言語との壁がない世界が、待っているのだろうか？

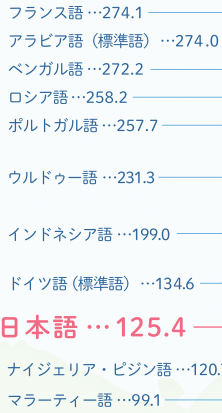
【出典】2023年「ビジネスパーソン英語力実態調査」（Duolingo JAPAN）。

Q.英語で話すことが好きですか？



Q.英語で話すことが好きな理由は？





世界で最も話されている言語

単位: 100万人



15億人が話す英語は、やっぱり世界の共通語！

世界で最も話されている言語は、やはり英語。非ネイティブ・スピーカーを含めて約15億人が英語を使っており、まさに世界の共通語となっている。2番目、3番目は人口の多い中国、インドの言語。4番目は中南米に話者の多いスペイン語。アメリカでは第2言語としてスペイン語を学ぶ人も多い。

【出典】2023年「The most spoken languages worldwide in 2022」(statista)。

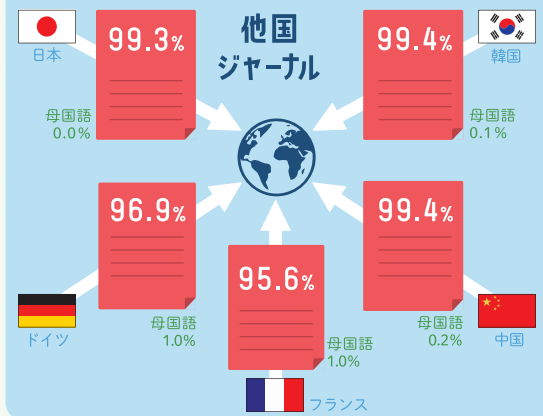
アカデミックな世界では、母国語だけでは通用しにくい

論文の使用言語を見ても、やはり英語で書かれるケースが多い。自国外のジャーナル (他国ジャーナル) に論文を掲載する場合は、ほとんど英語で書かれている。一方、国内のジャーナル (自国ジャーナル) に掲載する場合は母国語で書かれるケースもあるが、この場合は海外の研究者から引用されにくくなってしまふ。

【出典】2016年「ジャーナルに注目した主要国の論文発表の特徴—オープンアクセス、出版国、使用言語の分析—」(科学技術・学術政策研究所)。

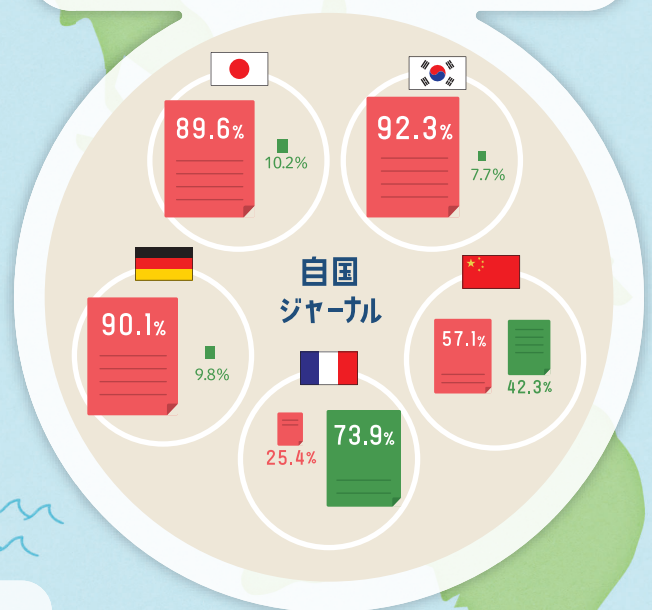
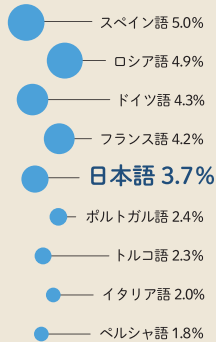
論文の使用言語

■ 英語 ■ 母国語



ウェブサイトにおいて最も使用されている言語

英語
55.0%



日本語での検索では、得られる情報が限定的に!?

ウェブサイト上で最も使用されている言語も英語。実に全体の55.0%が英語による発信だ。日本語が使用されているサイトは全体の3.7%ほどにすぎず、日本語でインターネット検索をすると、さまざまな情報にアクセスしているようで、実は限定的な情報にしか触れられていないことがわかる。簡単な英語で検索し、出てきたページの内容をAI翻訳を使いながら読むなど、便利なツールを使いながら広く情報収集をしたいものだ。

【出典】「Usage statistics of content languages for websites (2023年5月16日時点)」(W3Techs)。





つながるための「言葉」を獲得する
データで見る言語の「今」

世界各国の 英語力ランキング



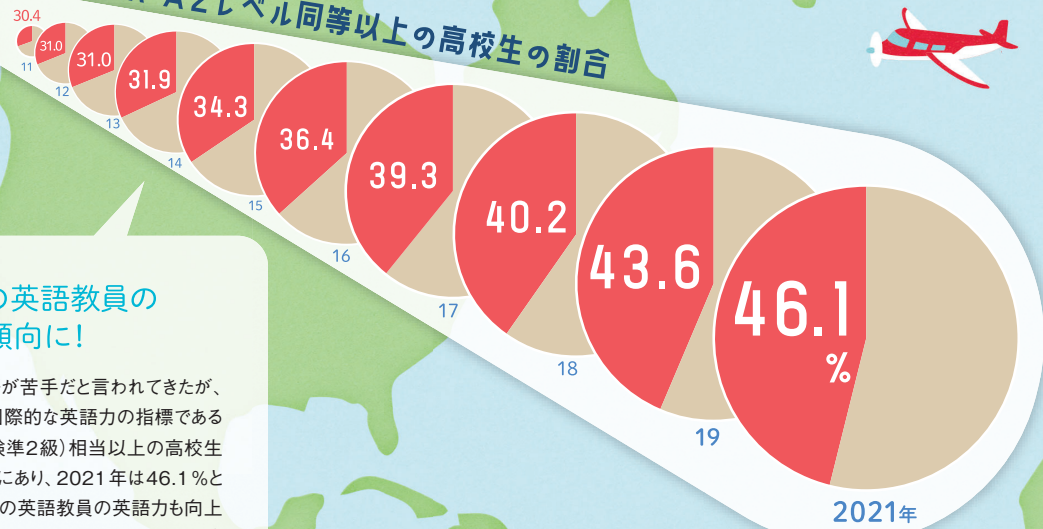
ベスト10には北欧諸国がランクイン。
日本は英語力が低いカテゴリーに…

EF Education First社が実施する英語テストの受験者(約210万人)の分析からなる国別の英語力ランキングで、1位となったのがオランダ。ベスト10にはノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランドなど北欧の国々が並ぶ。一方、日本は80位で、英語力が「低い」カテゴリーに分類されるという残念な結果に。ちなみに、2位はシンガポール。教育熱が高まりを見せる、アジアの注目国だ。

【出典】2022年「EF English Proficiency Index A Ranking of 111 Countries and Regions by English Skills」(EF Education First)。



CEFR A2レベル同等以上の高校生の割合



高校生&高校の英語教員の 英語力は向上傾向に!

これまで日本人は英語が苦手だと言われてきたが、明るいニュースもある。国際的な英語力の指標であるCEFRのA2レベル(英検準2級)相当以上の高校生の割合は近年増加傾向にあり、2021年は46.1%となっている。同様に、高校の英語教員の英語力も向上(CEFR B2レベル以上を取得している割合が増加)傾向にある。

【出典】2021年度「英語教育実施状況調査」(文部科学省)。



日本語はアジアで人気。 日本では韓国語を学ぶ人も多い

世界で最も学習者の多い言語は、英語。スペイン語、フランス語、ドイツ語、そして日本語と続く。日本語学習者が多いのは、中国、台湾、東南アジアなどの国や地域だ。日本で最も学習者の多い言語も、英語。韓国語が2位になる背景には、韓国ドラマやアーティストなどの影響がありそうだ。また、4位に日本語がランクインしているのは、海外から日本に来た留学生や旅行者、ビジネスパーソンが学んでいるからだと考えられる。

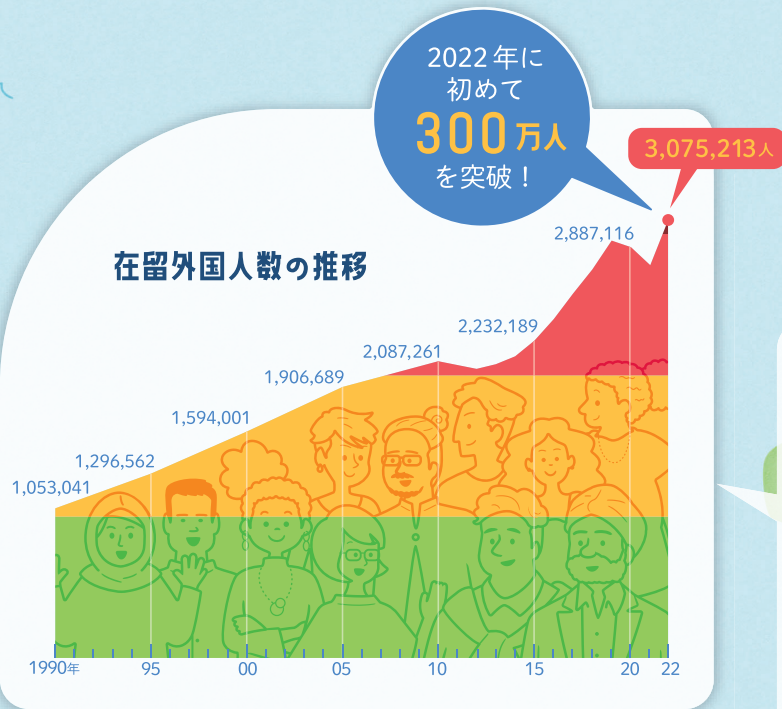
【出典】2022年「Duolingo Language Report 2022」[日本国内における語学学習に関する調査](いずれもDuolingo)。

世界で学習者の 多い言語トップ5



日本で学習者の 多い言語トップ5





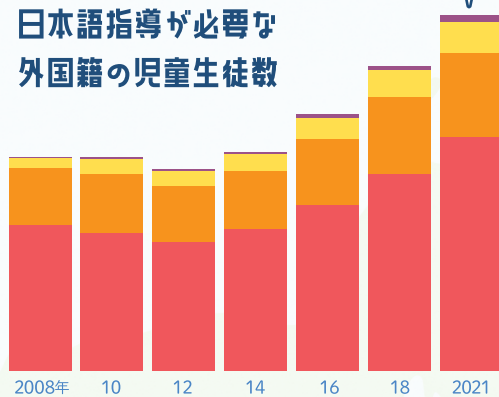
国内でも進むグローバル化。 在留外国人数が300万人に

日本国内に目を転じてみると、在留外国人の数は年々増加しており、2022年には300万人を突破。国内においてもグローバル化が進んでいると言える。在留外国人のうち外国人労働者数も増えており、普段の生活やビジネスシーンなどでも、日本語を母国語としない人の存在が身近になりつつある。

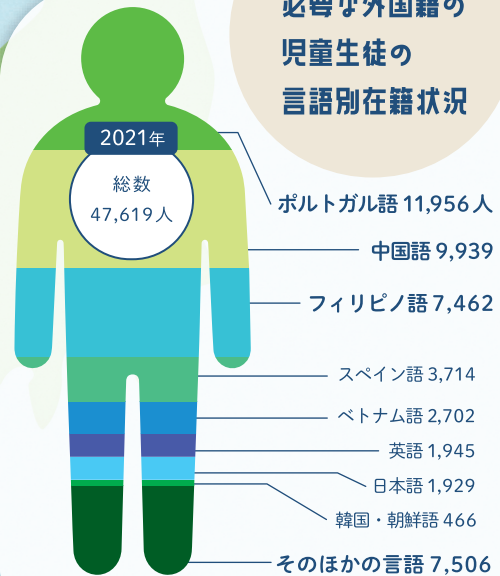
【出典】各年12月末時点の統計（法務省発表）。2011年までは、外国人登録者数のうち中長期在留者に該当し得る在留資格をもって在留する者及び特別永住者の数、2012年以降は、中長期在留者に特別永住者を加えた在留外国人の数。



日本語指導が必要な 外国籍の児童生徒数



日本語指導が 必要な外国籍の 児童生徒の 言語別在籍状況



日本語指導が必要な 外国籍の子どもが増えている

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は近年増加しており、2021年は4万7,619人。小学生が多いが、中学生、高校生も増えている。地域により状況は異なり、都道府県別では愛知県が1万749人と最も多く、神奈川県、静岡県、東京都、大阪府と続く。なかには外国籍の生徒や保護者とのコミュニケーションが課題になっている学校もある。

【出典】2021年度「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(文部科学省)。

子どもたちの母語はさまざま。 日本でも多言語化が進む

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の母語を見ると、最も多いのがポルトガル語で全体の約25%。これらの児童生徒の父母の多くは、ブラジルからの労働者であると考えられる。次いで多いのが中国語。さらに、フィリピン語、スペイン語、ベトナム語と続く。なお、日本語が母語かつ日本語指導が必要なケースには、海外からの帰国子女などが考えられる。

【出典】2021年度「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(文部科学省)。

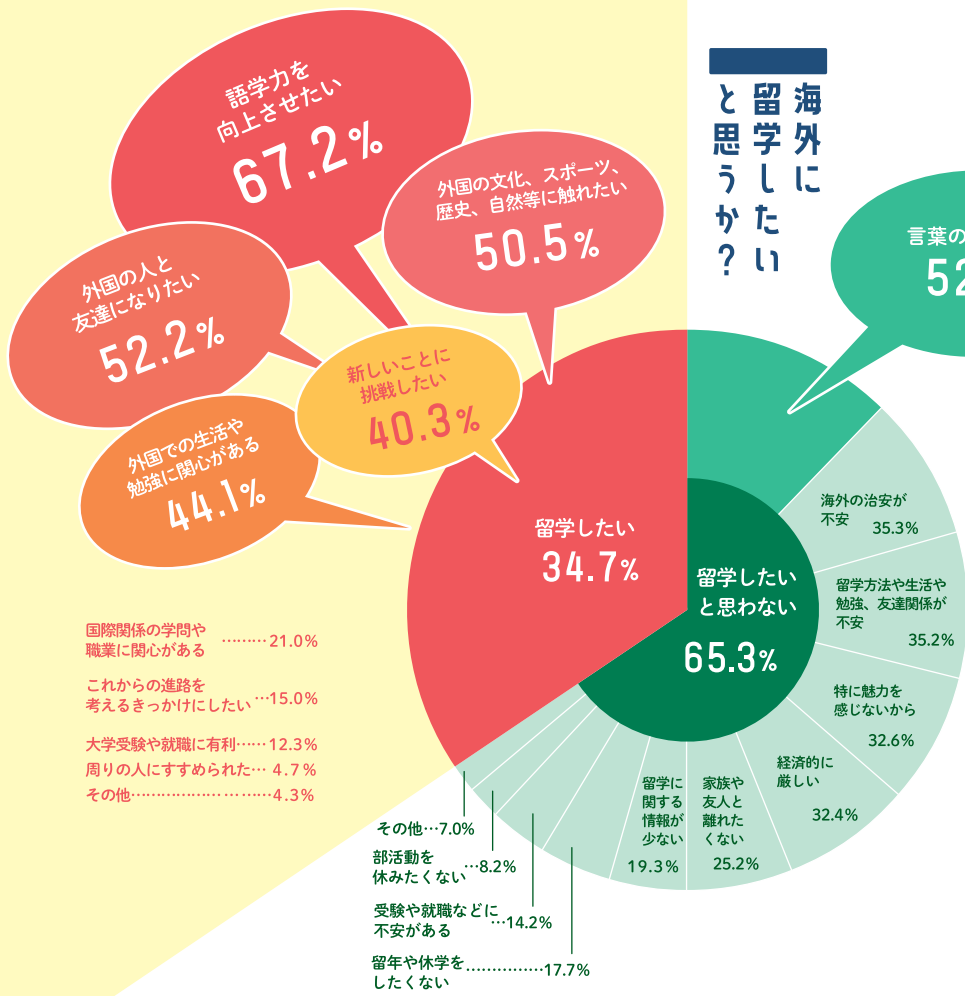




つながるための「言葉」を獲得する

データで見る言語の「今」

高校生の意識は？



言葉の壁を乗り越えたい？ 言葉の壁があるからやめておく？

高校生を対象にした留学に対する意識調査では、海外に留学したい人は34.7%、留学したくない人は65.3%となっている。留学したい理由(複数回答)で最も多いのが「語学力を向上させたい」である一方、したくない理由で最も多いのが「言葉の壁がある」。壁があるからこそ挑戦するのか、壁があるから挑戦しないのか、考えさせられる結果だ。

【出典】2021年度「高等学校等における国際交流等の状況について」(文部科学省)。

英語ができるようになったら何ができる？ (複数回答)



「言葉」は、新しい世界の扉を開くカギ

「英語ができるようになったら何がしたい？」という問いに対する高校生3年生の回答を見ると、友達を作りたい、話してみたい、海外旅行に行ってみてみたい、海外で働きたいと、挑戦したいことがたくさんあることがわかる。「言葉」は、新しい世界

の扉を開くカギ。英語に限らず日本語以外の言語を獲得することで、新しい視点を得られ、つながりが生まれ、これまで知らなかった世界が開ける。言葉のもつ可能性にワクワクしながら、続く特集本編を読み進めていただきたい。

【出典】2020年度「学習アンケート調査」(いっぴぐ書店)より。